【「認知症の人と家族の会」の活動と幡多地域での医療体制について】

Ｊ：　「認知症の人と家族の会（幡多家族の会）」では、会員の方に介護での戸惑い、悩み、喜びを分かち合い、学び合う場の提供をしています。

認知症の人と暮らす家族は、大変です。お嫁さんが「この頃、お母さんの行動がおかしいと言っても、子どもや兄弟のことは覚えていて、きちんと対応するので、兄弟や親類に理解してもらえず、情けなくて辛い。自分に対する態度と全然違うので、余計腹立たしい」と訴えます。しかし、家族の会へ来て他の人の話を聞くと、自分よりももっと大変な思いをしている人たちが自身の経験を明るく話していて、同じ体験者同士、安心して本音が話せるし、介護の苦労や認知症の人と共に暮らすことの大変さを分かってくれる人がいるので、心が和むと言ってくれます。

また、このような話し合いの場の提供の他に、年に１、２回専門医によるお薬の話や、認知症の最近の話題などの講演会を開いています。

活動の中での課題としては、１点目として、現在、幡多家族の会は幡多地域６市町村で構成しているので、各市町村に家族の会をつくることです。現在（活動を始めて）１７年目に入っていますが、まだこの会を知らない人がたくさんいます。昨年、地域包括支援センターの支援を受けて、四万十市に「たんぽぽの会」という家族会ができましたが、各市町村にできれば、身近な場所に集まって話し合えると思います。

２点目は、介護している側も高齢の方が多く、須崎や高知市の病院まで通院するのは大変なので、幡多地域にも、月に何日かの勤務でいいので認知症の専門医がほしいです。認知症の勉強をされた認定医の先生もいらっしゃいますが、まだ一般に知られていなくて、どの病院に行っていいのか分からない方も大勢います。

今後の取り組みとしては、地域住民への認知症の理解を広めることです。認知症を他人事と思わず、認知症の方も地域で暮らしていけるよう見守っていただくために、キャラバンメイトや、サポーター養成講座などの勉強会に多くの方に参加してほしいです。私たちも地域の方とともに、認知症の方が地域で暮らしていける場所づくりに取り組んでいけたらと思います。

私たちの会は、会費のみで運営しており、ほとんどボランティアでやっています。最後に、幡多家族の会は６市町村で構成しているので助成金をいただきたいと言ってもなかなかまとまりません。その辺も、ちょっと考えていただければと思っています。

知事：　この「対話と実行」座談会で、「認知症の人と家族の会」の方からお話を伺うのが５回目ぐらいです。本当に「家族の会」の方々の存在の大きさ、役割の大きさを感じていまして、もう一段、県の対応を充実しないといけないのではと考えているところです。どういうやり方があるかということについて、また、いろいろとご意見も伺いたいと思いますが、会の立ち上げ支援から始まって、研修や講演会についてもどういう方法だとより良いのかなど、一緒に研究させてもらいたいと思います。

現在、地域ごとに認知症疾患医療センターを作って、相談体制などを充実させようと取り組みを進めています。高知市については、（今年４月に）鏡川病院に認知症疾患医療センターとして対応していただいています。今度、高知医療センターの中に精神科病棟を設置して県内全域をカバーして対応することになると思いますが、幡多地域での認知症疾患医療センター設置についても検討していきたいと思います。

そうなると、おのずと専門医が来てくれることにもなるでしょう。ただ、専門医がいないとセンターができないというところもあって、どっちが先かみたいなところがあるんですが、いずれにしても、大変大事な仕事ですので、一生懸命加速できるよう頑張ります。